

在日ベトナム人技能実習生の保健行動やHIV検査等に関する意識調査
東京における建設業の技能実習生を対象としたヒヤリングからー
「HIV検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究」班

研究協力者 Tran Thi Hue エイズ予防財団リサーチレジデント

研究代表者 北島 勉 杏林大学総合政策学部教授

研究要旨

日本では、在住外国人男性のHIV陽性者数は増加傾向にあり、その中で開発途上国の出身者が多く、日本語も英語も不自由であり、医療へのアクセス困難に直面している。また、技能実習生を含む外国人労働者を増加させる労働政策の変化により、これから技能実習生数の増加があり、外国人のHIV報告数も増加し続けることが予測される。これらの外国人に対して、HIV検査受検促進や医療サービスへのアクセスを向上するために、外国人のHIV検査受検行動や検査施設に対する認識と利用状況を把握することが重要である。

そこで、本研究では、技能実習生のHIV検査と検査施設に対する認識を把握し、HIV検査へのアクセス向上の方法を明らかにすることを目的に、ヒヤリング調査を実施した。本調査の対象者は、東京都の一つの建設会社に所属しているベトナム人男性 16 人であった。調査に使用した項目は、基本属性、日本での生活パターンと健康状態、HIV検査に関する認識、HIV検査へのアクセス向上であった。

調査結果から、対象者のHIV検査施設に関する認知度が低いことが示された。また、休日に検査を受けられること、無料匿名で受験できること、通訳を含む言語サービスを提供することなどはHIV検査受検率を向上することに寄与する可能性が示唆された。

今後、ベトナム人のみならず、他の国籍の外国人技能実習生も対象に、一般の外国人技能実習生におけるHIV検査受検行動とその関係要因について更なる検討が必要である。

A. 研究目的

日本では、この5年間、外国人のHIV/AIDS報告数の増加が続いており、2018年ではHIV感染者とAIDS患者を合わせると174件であり、2013年(145件)より20%増加する

と報告された(エイズ動向委員会、2018)。性別を見ると、HIV感染報告とAIDS報告いずれにおいても男性が多く、2018年度報告では、外国人のHIV感染者報告の86.4%、AIDS患者報告の73.5%を男性が占めている。また、国籍別では、フィリピン、インドネシア、

ベトナムなどの東南アジアの増加が目立っている。この背景には、2012年以降、技能実習生と日本語学校生の外国人を増加させる政策の変化により、これらの国からの技能実習生と日本語学校生が急増していることが原因であると考えられる。

また、外国人の受療動向に関する先行研究で示されたように、外国人のHIV感染者の中で、日本での生活基盤が脆弱な開発途上国の出身者が多く、日本語も英語も不自由であり、医療へのアクセス困難に直面している事例が多いことが指摘された(沢田ら、2016)。こうした中で、それらの外国人に対して、HIV検査受検促進や医療サービスへのアクセスを改善するために、外国人のHIV検査や検査施設に対する認識と利用状況を把握することが重要である。そこで、本研究では、技能実習生のHIV検査と検査施設に対する認識を把握し、HIV検査へのアクセス向上の方法を明らかにすることを目的に、調査を実施した。

B. 研究方法

1. 調査対象者の選定

2020年02月16日、外国人技能実習生の中で約半数を占めているベトナム人技能実習生を対象にインタビューした¹。対象者は東京に在住しており、一つの建設会社に所属する男性の16人であった。

調査への協力が得られた会社には、調査の主旨を対象者に伝えもらい、会社側に参

加者と場所を調整してもらった。会社が指定した部屋を借り、調査を実施した。

実施において、調査対象者を4つのグループに分け、各グループ1時間程度ヒヤリングを行った。調査対象者の同意を得てヒヤリングを録音し、後日整理した上、調査項目に対する参加者の回答を記述した。

調査の流れとして、まず、事前に用意した調査質問をベトナム語で参加者に回答してもらってから、次に、HIV検査に関する多言語対応アプリをインストールしたタブレット端末を試用してもらい、調査票に、その感想や改善点などを書いてもらった。

2. 調査項目

調査項目はベースライン調査の項目を基に、調査の目的に合わせて、4つのカテゴリーを設けた。それは、対象者の基本属性、

日本での生活習慣・健康状態、HIV検査受検行動(ベトナムにいた時と日本に来た時との比較)、HIV検査へのアクセス向上の項目であった。詳細は表1参照。

¹法務省のデータでは、2019年度には、全国技能実習生の28万人のうち、約45%が

ベトナム人であり、国内の技能実習生数の中で最も多い国籍となっている。

表1. 調査項目

調査項目	調査内容
1. 回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢、婚姻状況、出身地 ● 来日前の仕事 ● 来日した時点 ● 日本語レベル
2. 日本での生活習慣・健康状態	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事や睡眠の状況 ● 健康に関する不安や悩みの有無 (不安や悩みがある場合) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 病気があった場合の対処法 ➢ 不安や悩みの相談相手 ● 休日の過ごし方 ● 日本でガールフレンドの有無 ● コンドームの購入場所に関する情報
3. HIV検査受検行動	<ul style="list-style-type: none"> ● ベトナムでHIV検査を受けたことがあるか。 (受検した場合) <ul style="list-style-type: none"> ➢ いつ受けたか ➢ 来日とは関係なく受けたことがあるか ➢ どこで受けたか？その理由 ● 日本でHIV検査を受けたことがあるか。 ● 日本でHIV検査を受けたいと思うか。 (受検したい場合) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 受検場所を知っているか ➢ 受検の相談相手 (受検したくない場合) <ul style="list-style-type: none"> ➢ その理由
4. HIV検査へのアクセス向上	<ul style="list-style-type: none"> ● どうしたらHIV検査を受けやすくなるか ● 日本で保健医療関係の情報の入手方法 ● 保健所を聞きたいことはあるか。 ● ベトナム人を対象としたHIV検査イベント、参加したいと思うか。 ● イベントについて、多くの人に知ってもらうための効果的な広報方法

3. 倫理面への配慮

研究代表者が所属する杏林大学大学院国際協力研究科の研究倫理委員会からの承認を得た。また、調査に先立って、受入れている会社に研究の目的を説明し、調査協力の同意を確認している。さらに、面接調査を実施する際には、参加者にその旨を説明し、同意を得たうえで行った。

C. 研究結果

1. 調査対象者の基本属性

調査協力者の属性は表2にまとめた。インタビューの協力を得られた16人の技能実習生の職種は建設業であった。16人全員が男性で、平均年齢は27歳、未婚10人、平均在留期間は2年4か月、全員会社の寮に住んでいた。日本語能力に関して、殆どがN5のレベルであった。

表2. 調査協力者の基本属性 (N=16)

属性	人数
ベトナムでの出身地	
北部	9
中部	7
来日前の職種	
軍人	9
工場	6
運搬業	1
平均年齢	27
平均在留期間	28か月
婚姻状況	
未婚	10
既婚	6
日本語能力	

N4	1
N5	15

2. 日本での生活パターンと健康状態

日本での生活習慣と健康状態に関する調査項目の結果を表3に示した。まず、「食事や睡眠の状況」について見ると、「寮の食堂の料理が美味しくない」ことにより、「時々外食か自分で作っている」といった回答が挙げられた。一方で、睡眠状況について、全員が「睡眠を十分にとっている」や「健康維持のために、早めに寝るようにしている」と回答したことから、健康維持に気を配っていることが分かった。

休日の過ごし方について、「寮で何もせずにゴロ寝で過ごすか友達とパーティーする」のは10人であり、「外出する」のは6人となった。

次に、「来日してから、病気になったことがあるか」や「病気があった場合、だれに相談するか」を尋ねた結果、回答者の中で、3人が「風、インフルエンザ、花粉症などの病気になったことがあり、その時、会社の通訳者に案内してもらった」と回答した。「病気になったことはない」と回答した人に対して、「病気になったとき、不安があるか」を尋ねたところ、「通訳者のサポートがなければ、受診できない」ことが挙げられた。

パートナー状況に関しては、「日本にはガールフレンドはいない」者は14人であった。また、「コンドームの購入場所」に対して、「コンビニやドラッグストア等」購入場所を知っているのは13人であった。

表3 調査対象者の健康状態・生活習慣

質問	回答	回答人数	回答例
食事や睡眠の状況	寮の食堂で食べている	16人(100%)	「料理は美味しくない」 「時々外食か自分で作っています」
	睡眠を十分とる	16人(100%)	「健康維持のために、早く寝るようにしています」
休日の過ごし方	寮で過ごす	10人(62.5%)	「寮で何もせずにゴロ寝で過ごします」 「寮でパーティーをします」
	外出	6人(37.5%)	「友達の家でパーティーするか、買い物に行きます」
健康に関する不安や悩みの有無	病気になったことがある	3人(18.8%)	「会社の通訳さんに連絡して、受診の時、通訳してもらいました」
	病気になったことはない	13人(81.2%)	「病気になったとき、通訳者の付き添いがなければ、受診できない」
日本でガールフレンドの有無	いる	2人(12.5%)	「他の地方で技能実習生をしています が、来日前から付き合っています」
	いない	14人(87.5%)	「結婚しています」「彼女がベトナムにいます」
コンドームの購入場所	知っている	13人(81.2%)	「コンビニかドラッグストア」
	無回答	3人(18.8%)	

3. HIV検査と検査施設に関する知識

ヒアリングの内容は、1) HIV検査とHIV検査施設に関する知識、2) HIV検査へのアクセスであった。項目1の調査結果は表4に示す。

参加者全員がベトナムでHIV検査に関する知識や予防を学校や職場で教えてもらったことがあり、日本に来るためにHIV検査を受けたことがあることが示された(表4)。一方、日本に来てからは、会社の定期健康診査を受けているが、HIV検査を受けたことがないことも分かった。また、「検査をどこで受けら

れるか知っているか」と「保健所を聞いたことがあるか」の質問に対して、全員の回答は「知らない」であり、日本のHIV検査施設についての認知度が低いことが目立った。

表4. HIV検査とHIV検査施設に関する知識

質問	「はい」の回答
ベトナムにいたとき	
母国でHIVに関する知識や予防を学校等で教えてもらったことがある	16 (100%)
ベトナムでHIV検査を受けたことがある	16 (100%)
HIV検査を受けた理由 → 日本に来るために	16 (100%)
日本に来た時	
日本でHIV検査を受けたことがある	無し
検査をどこで受けられるか知っている	無し
「保健所」を聞いたことがある	無し

表5では、日本でのHIV検査へのアクセスに関する回答を示す。HIV検査を受けやすくするために重要なこととして、「日曜日か休日を実施してほしい」「通訳か言語サポートがあること」「無料」が挙げられた。また、日本でHIV検査イベントを受検するか否かについて、「参加したい」と答えた人は10人であった。さらに、その内訳を年齢別で見ると、20歳台の人では8人が参加したいと答えており、若い人の方が積極的に受検する意向が見られた。

表5. 日本でのHIV検査へのアクセス

質問	回答
HIV検査をどうしたら受けやすくなるか	
日曜日か休日を実施してほしい	8 (50%)
ベトナム語の説明資料や通訳者を設けてほしい	8 (50%)
無料	1 (6.2%)
HIV検査イベントがあって、無料で検査が受けられる場合、参加したいですか。	
参加したい (30歳台: 2人、20歳台: 8人)	10 (62%)
参加したくない (30歳台: 3人、20歳台: 3人)	6 (37.5%)
HIV検査イベントをより多くの人に知ってもらうためには、どのように広報すればいいのか	
SNSを使う	7 (43.7%)
組合や会社に資料を送る	6 (37.5%)
在日ベトナム人コミュニティ・グループ	3 (18.7%)

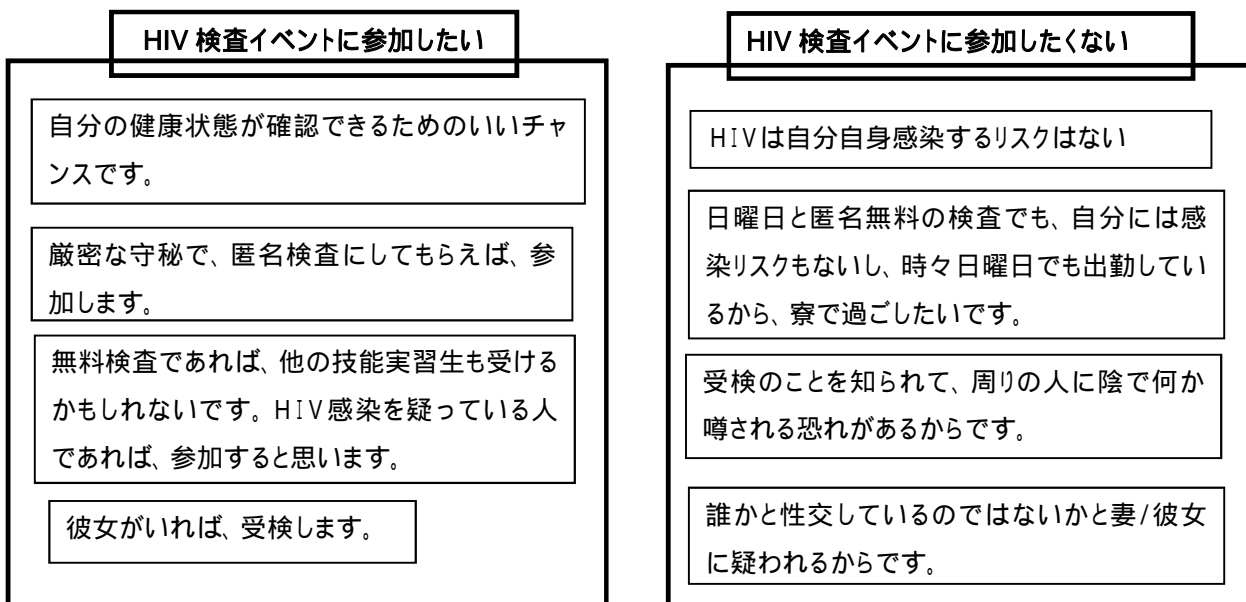
次に、上記の「参加したい」が「参加したくない」理由を説明してもらった。各回答をカテゴリーに合わせて、近似したものを整理して、グループ化した。図1のように、「参加したい」理由に関しては、「自分の健康状態が確認できる」と「彼女がいれば、受検する」といった自分とパートナーの健康を配慮した回答があった。また、「無料で、匿名検査」といった保健施設の利便性についての答えも挙げられた。

一方、「参加したくない」理由に関して、

「自分自身HIV感染のリスクはない」や「日曜日には時々出勤しているから、検査より寮で過ごしたい」などといった認識と時間的な問題が挙げられた。また、「受検のことを知られて、周りの人に陰で噂される恐れがある」か「他の人と性交しているのではないかと妻/彼女に疑われる」といった他人とパートナーからの反応を懸念する回答があった。

上記の結果から、参加者にとって、自分とパートナーの健康予防や保健所の利便性などがHIV検査のアクセスにポジティブ的な影響を与えていることが示された。一方、時間的な問題と他人の反応への懸念はHIV検査受検行動を障害する要因となることが示唆された。

図1. HIV検査イベントに参加するか否かの理由



最後に、参加者に多言語対応アプリをインストールしたタブレット端末を試用し、自記式質問票に、その分かりやすさや改善点などを書

いてもらった。アプリを試用した後の感想は以下の表6に示す。

表6. 多言語対応アプリへの感想

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い
アプリの使い方	2	10	4	0	0
説明の解りやすさ	3	13	0	0	0
答えの解りやすさ	4	9	3	0	0
役立つか	10	5	1	0	0
	そう思う	多分そう	どちらでもない	多分違う	違う

アプリを使用している検査 施設で検査を受けたい	16	0	0	0	0
----------------------------	----	---	---	---	---

また、改善点として、以下の意見が寄せられた。

- 内容について：「個人情報の入力フォームを追加してほしい。そのフォームに入力した後、検査日と会場の情報を教えてほしい」等の要請があった。また、「全体的には分かりやすいですが、まだあまり詳しくないと思います。例えば、HIV感染が分かったら、どんな治療方法があるのか、どんな薬剤があるのか、まだはっきり書いていないです」の指摘もあった。
- 解りやすさについて：「HIVの病状の経過図、動画などを加えたらより分かりやすくなる」「検査受検の重要性を分かりやすく伝えるために、HIV感染症の写真も加えてほしい」等の要請があった。
- 役立ち度について：「分かりやすいし、便利だし、利用者にとっては大変役に立つアプリです。特に、日本語ができない外国人にとっては、大変助かります」「ベトナム人なら、このアプリを導入している検査会場で受験したいです」などの回答が多かった。

試用した参加者からのフィードバックによれば、多言語対応アプリが役割を果たせることが示唆された。今後、言葉が不自由な外国人が増加を続けている背景において、一般の保健所で導入することができたら、通訳が不在であっても、HIV検査に対応できると

期待される。一方、参加者によって内容やわかりやすさに関する改善点の指摘が寄せられたため、今後の取り組みが求められる。

D. 考察

本調査の目的は、ベトナム人技能実習生のHIV検査に対する認識や利用状況を把握し、HIV検査へのアクセス向上の方法を明らかにすることであった。

本調査の対象者は、全員男性であり、平均年齢 27 歳と比較的に若く、日本語がほとんどできないグループであった。HIV検査に関する知識と受検経験について、対象者全員は来日前に、ベトナムで学校や職場でHIV検査に関する基礎知識や予防を教わったことがある一方、来日のためにHIV検査を受けたことがある一方、日本に来てから、HIV検査を受けたことがないことが分かった。また「保健所」に関する情報については、対象者全員が「知らない」と回答しており、HIV検査施設についての認知度が低いことが示唆された。こうした低い認知度から、効果的なHIV検査施設の宣伝が課題であると考えられる。

その課題に関して、本調査の結果から、HIV検査イベントを宣伝する際に、ベトナム人技能実習生にとって、必要な情報をSNSで掲載するか、協同組合及び会社に周知することが効果的なツールであることが分かった。今後のHIV検査の普及啓発には、これらのツールを導入することが望ましいと考えられ

る。

また、HIV検査を受検しやすくするために重要なこととして、「日曜日や休日に実施すること」「無料匿名」、「通訳や言語の支援」などが挙げられた。このことから、受験率を向上するために、休日に検査を受けられるようなこと、匿名無料で受検できること、言語的なサポートなど、より利用しやすい環境を整えることが必要であると考えられる。

さらに、対象者の中で、20歳台の若い人が自分自身とパートナーの健康予防のために、HIV検査イベントに対して、積極的な態度を示していることは興味深かった。このことはベトナムにおけるHIV検査の重要性に関する教育活動に繋がっているのではないかと考えられる。今後、技能実習生の若者とパートナーの受検増加によって、受験率の向上が期待される。

E. 結論

日本では、外国出身者のHIV/AIDS報告数の増加が続いており、HIV受検行動の促進は重要な課題となっている。本調査の結果から、対象者のHIV検査施設についての認知度はまだ低いことが分かった。また、無料匿名で休日にHIV検査が受けられることや、通訳や言語のサポートを提供することは、ベトナム人技能実習生のHIV検査受験率を向上することに寄与する可能性が示唆された。

本調査は在住ベトナム人技能実習生を対象とした調査であり、対象者数が20人と少なかった。ここで得られた結果がベトナム人技

能実習生や一般の外国人技能実習生を代表した結果であるとは言い難い。そのため、今後、ベトナム人のみならず、他の国籍の外国人技能実習生を対象に、一般の外国人技能実習生におけるHIV検査受検行動とその関係要因について更なる検討が必要である。

参考文献

- 1) 厚生労働省エイズ動向委員会 . 平成30年エイズ動向委員会報告, 2018 .
- 2) 沢田貴志、山本裕子、樽井正義、仲尾唯治 . エイズ診療拠点病院全国調査から見た外国人の受療動向と診療体制に関する検討 . 日本エイズ学会誌、18:230-239, 2016.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし